

施設の維持管理に関する計画

搬入管理

- ①契約時に排出事業者、搬入される廃棄物の状態を確認する。
- ②マニフェスト票の内容及び契約書等により搬入日、排出源、収集運搬業者等を書類で確認を行い記録する。
- ③搬入される廃棄物の確認を行う。許可品目以外の混入、処理基準の合否、臭気チェック等を実施する。
- ④産業廃棄物については、事務所前に設置する重量計により計量し、記録し保存する。また覆土についても搬入日及び購入先、量等を記録する。

埋立作業管理

- ①埋立処分計画により指定した場所に搬入車両を誘導し、全数展開検査を実施する。
 - ア．展開検査場所は、飛散防止や排水を考慮し、処分場内に設置し埋立の進捗に伴い場所を移動させていく。
 - イ．展開検査はダンプアウト⇒重機による展開と検査員の目視⇒正常であれば、そのまま埋立処分異物混入があればダンプ積込後排出の手順で行う。（検査状況は写真撮影を行う）
なお、ダンプアウト時には、必要に応じて散水を行い湿り気を与える。
 - ウ．展開検査は、異物の付着混入がないか、廃プラの破碎状況等、埋立の基準の合否を確認するものであり、維持管理上最も重要な作業である。
 - エ．埋立の基準に適合しない場合は、搬入車両で全量搬出させるとともに、持込み及び排出業者に聞き取り調査を行い、悪質と判断した場合は、1年間の搬入停止とする。
 - オ．埋立作業を処分場の東、南側の岸壁に近い場所で行う場合には、落石防止網の破損の有無、落石防止網の最下部に衝撃緩衝用の土盛り（50cm程度）があるかを確認し、さらに落石防止網目から落下する小石等を防止するため、仮設防護柵を設置する。
- ②埋立方法はセル方式とし、いつ、どこに、何を埋め立てたかを記録する。
- ③石綿含有産業廃棄物については、指定場所に埋め立てる。
- ④埋立後は飛散防止のため即日覆土・転圧を行う。
- ⑤各小段の造成は申請図面をもとに構築することとし、まず法面を完成させ、その背後に廃棄物を埋め立てる。
- ⑥即日の埋立終了時には、廃棄物の飛散が無い事を確認する。
- ⑦埋立終了場所には50cm以上の覆土をするとともに立入禁止区域とする。

施設管理

- ①日常において、浸透水貯留枡、沈砂池の状況や漏水の有無の点検、場内排水路及び周辺側溝の点検及び清掃、排水ポンプ及び排水管の点検を行う。
- ②月に一回、浸透水貯留枡、沈砂池の堆積土の状況を確認し排除を行う。
- ③年に一回、構造物（浸透水貯留枡、沈砂池、擁壁等構造物等）の沈下や傾き等の異常を確認する。
また、ポンプ、重量計、発電機、水処理施設等の設備についてメンテナンスを行う。

環境管理

- ①放流水（浸透水）及び周縁地下水の測定結果の確認と保存を行う。（頻度は別紙）
- ②放流水（浸透水）の目視（毎日）
- ③廃棄物の飛散状況を確認し、飛散があればただちに回収する。

法定帳簿（閲覧場所は管理事務所とする）

- ①処分実績表 （埋立処分した廃棄物の各月毎の種類及び数量）
- ②擁壁等の点検表 （点検を行った年月日及びその結果、擁壁等が破損する恐れがあると認められた場合に措置を講じた年月日及び措置の内容）
- ③展開検査の状況 （各月毎の実施回数、検査結果、受入不可が認められた年月日及び措置の内容）
- ④水質検査結果 （当該水質検査に係る地下水及び浸透水の採取場所、年月日、結果が得られた年月日及びその結果）
- ⑤水質の悪化が認められた場合の措置 （当該措置を講じた年月日及びその内容）
- ⑥残存埋立容量 （測定を行った年月日及びその結果）

※①～⑥の維持管理情報については、結果が得られた日が属する翌月の末日までにホームページにて情報公開する。

放流水(浸透水)の水量、水質、測定頻度及び放流方法

項目(単位)		生活環境保全のため達成することとした数値		実運転の際に達成する数値		終了から廃止まで	
		通 常	最大(豪雨時)	浸透水(測定回数)	周縁地下水(測定回数)	浸透水(測定回数)	周縁地下水(測定回数)
排水量	m ³ /日	105	1008				
pH	—	6.5～8.5	6.5～8.5	同左 (毎月)	同左 (1回/年)	同左 (1回/3月)	同左 (1回/年)
BOD	mg/L	20以下	20以下	同左 (毎月)	同左 (1回/年)	同左 (1回/3月)	同左 (1回/年)
COD	mg/L	40以下	40以下	同左 (毎月)	同左 (1回/年)	同左 (1回/3月)	同左 (1回/年)
SS	mg/L	30以下	30以下	同左 (毎月)	同左 (1回/年)	同左 (1回/3月)	同左 (1回/年)
n-ヘキサン抽出物	mg/L	5以下	5以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
窒素含有量	mg/L	20以下	20以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
燐含有量	mg/L	5以下	5以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
カドミウム	mg/L	0.003以下	0.003以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
全シアン	mg/L	検出されない	検出されない	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
有機燐化合物	mg/L	0.1以下	0.1以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
鉛	mg/L	0.01以下	0.01以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
六価クロム	mg/L	0.05以下	0.05以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
砒素	mg/L	0.01以下	0.01以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
総水銀	mg/L	0.0005以下	0.0005以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
アルキル水銀	mg/L	検出されない	検出されない	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
PCB	mg/L	検出されない	検出されない	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
トリクロロエチレン	mg/L	0.01以下	0.01以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
テトラクロロエチレン	mg/L	0.01以下	0.01以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
ジクロロメタン	mg/L	0.02以下	0.02以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
四塩化炭素	mg/L	0.002以下	0.002以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
塩化ビニルモノマー	mg/L	0.002以下	0.002以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・2-ジクロロエタン	mg/L	0.004以下	0.004以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・1-ジクロロエチレン	mg/L	0.1以下	0.1以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04以下	0.04以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・1・1-トリクロロエタン	mg/L	1以下	1以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・1・2-トリクロロエタン	mg/L	0.006以下	0.006以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・3-ジクロロプロペン	mg/L	0.002以下	0.002以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
チウラム	mg/L	0.006以下	0.006以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
シマジン	mg/L	0.003以下	0.003以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
チオベンカルブ	mg/L	0.02以下	0.02以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
ベンゼン	mg/L	0.01以下	0.01以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
セレン	mg/L	0.01以下	0.01以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
1・4-ジオキサン	mg/L	0.05以下	0.05以下	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)	同左 (1回/年)
ガス発生状況		—	—	—	—	1回/3月	
地中の温度状況		—	—	—	—	1回/3月	
放流方法		浸透水貯留槽⇒ポンプで佐与谷川へ放流⇒有漢川					